

# 教育シンポジウム

## 「今、TEACCH の視点から共生の初等教科教育を考える」

大会長 小野寺 昇

川崎医療福祉大学 健康体育学科

### 教育シンポジウム開催の趣旨

発達障害の可能性を有する児童生徒が増加傾向にある。このような学校教育の現状を踏まえ、TEACCH の視点から多様な児童が 1 つの学級で学べる初等教科教育の教材を提案することが本シンポジウム開催の趣旨である。シンポジウムは、2023 年 8 月 25 日（金）に川崎医療福祉大学の 4603 講義室で開催された。当日は、医療福祉学科及び社会連携センター TEACCH Autism Program 所属の諏訪利明准教授と小田桐早苗講師による TEACCH 講演がなされた後に、各教科 15 名の先生方による教材の提案があった。シンポジウムには、倉敷市教育委員会の学校教育部部長の根岸正治氏と、指導課特別支援教育推進室長の城井田成美氏がアドバイザーとして陪席した。

文部科学省の「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」（令和 4 年 12 月）によると、「知的発達に遅れはないものの学習面または行動面で著しい困難を示す」とされた小・中学生の割合は、8.8%である。全国の公立小・中学校に在籍する児童生徒数を基に推計すると、約 80 万人の児童生徒が該当することになる。このような児童生徒は、大部分の授業を在籍する通常の学級で受けており、通級で指導を受けている小・中学生の割合は 10.6%にとどまるなど、支援が行き届いていない現状がある。

本シンポジウムで提案がなされる初等教科教育のための教材は、通級による指導などを行う以前に、通常の学級で一緒に学べる場と機会を TEACCH の考え方を導入することにより可能にするものである。このような本シンポジウムの提案の背景踏まえ、通常の学級で一緒に学べる場と機会が可能になる教材の工夫と、TEACCH の関連性を図 1 にまとめた。

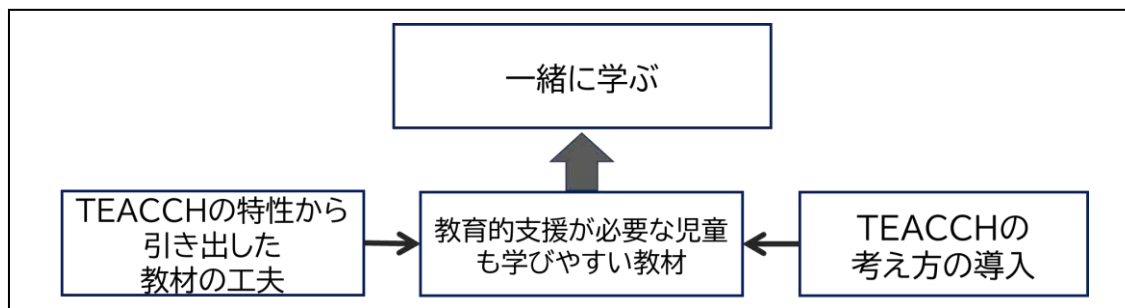


図 1 通常の学級で一緒に学べる場と機会が可能になる教材の工夫と TEACCH の関連性

TEACCH の特徴を生かして開発された教材は、教育的支援を必要とする児童以外の子どもも学びやすさにもつながると考える。本シンポジウムの企画が、今後の初等教科教育におけるインクルーシブ教育の実現に貢献するものと期待する。